

大会医学(Mass gatherings Medicine)と関連して大変興味深い内容の講演を聞きましたのでまとめました。

先日、慶応義塾大学商学部の吉川肇子(きっかわとしこ)災害心理学教授が西伊豆に来られ「災害時の情報について考える」の題で講演されました。吉川先生は災害時におけるクロスロード(災害対応ゲーム)の創始者です。家内が西伊豆の災害ボランティアコーディネーター(災害時来られるボランティアの統括)のリーダーをしていてコーディネーター養成講座の一環として講演をお願いしました。

TDL(東京ディズニーランド)は群衆コントロールのお手本と言えるくらい素晴らしいのだそうです。

TDLは開園時間が8月は8AMから10PMです。大人1人6,400円もしますから皆、元を取ろうと夜討ち朝駆けで駐車場で待機、8AM開園と同時に入口に殺到します。

入場口では着ぐるみのミッキーマウス達が愛想を振りまき記念写真を撮ったりして、一斉入場に時間差をつけます。

また入園すると、中で風船を配ったりマーチングバンドがいたりして、各アトラクションへの一斉猛ダッシュを防ぎます。

そして行列は一直線ではなくクネクネつづら折りにして入口が見えるようにし、また「あと30分」の札を掲げたり、スタッフが話しかけたりして客のイライラを減らします。

TDL出口では駅までの途中に土産物屋があり閉園時、一斉に駅に群衆が殺到するのを防ぎます。

一般の演奏会でのカーテンコールやアンコール、サッカー、野球の試合後選手インタビューも一度に客が帰るのを抑えるためだそうです。

緊急時の人間の行動は法則があります。

1. 優勢反応あるいは慣習行動

緊急時、人はいつもやり慣れたことをしようとします。普段の「避難訓練」が重要な由縁です。

災害に遭ったり山で迷うと元来た道に戻ろうとします。

1972年、大阪千日前デパート火災は3階から出火し7階のキャバレーにいた客が降りられなくなり24名が飛び降りて22名死亡、96名はエレベーターに向かった支配人の先導効果でそれにつられてデパートの中央へ行き一酸化炭素中毒で死亡しました。

ホステスの一人は普段ダイエットの為、非常階段でキャバレーに上がり降りしていました。

このホステスは慣習行動(優勢反応)で非常階段を降り助かったとのこと。

ただだらでもいいから避難路を歩いておけとのこと。

避難路を普段の散歩道とするのがよいとのこと。災害対策は「練習がすべて」です。

2. 先導効果あるいは同調行動

災害時、リーダーにつられて行動しようとしています。1人が1方向へ向かうとそれについて行ってしまいます。

3. 左側通行

1平方メートルあたり0.3人以上の人がいると理由は判りませんが自然に左側通行になるのだそうです。ですから群衆を避難誘導する時は左側通行とします。

4. パニックが起こるのは極めて稀である

災害時、非現実的楽観主義と言って自分だけは助かるだろうと思うのだそうです。

平常時と同じと考えようとするのです。正常化バイアスともいいます。

パニックが起こるのは以下の4つが揃ったときのみです。

- ・生存の危機がある。
- ・生存できる可能性がある。
- ・脱出口が限られる。
- ・時間が切迫している。

ロンドン爆破テロの時も爆発直後は現場はシーンとしてパニック状況ではなかったとのこと。

5. 人は直ちに行動しない

人は情報の意味が判るまで動かないとのこと。しかし理由のある依頼には承諾します。

「津波が来るので逃げて」などです。ですから避難を呼びかけるとき理由が必要です。

韓国のセウォル号沈没事故を見るとよくわかります。非現実的楽観主義(正常化バイアス)で「平常時と同じ」と思いこもうとし、また「そのまま留まれ」と言われたために逃げ遅れました。

6. 物や技術の普及は16%を越えると急速に進む。めざせ16%。

これには「へー！」でした。

西伊豆病院 仲田和正